

病める時もまた、恵みの時

山里 将之

みなさん、こんにちは！
貝塚聖書教会の山里将之です。



先週、1月14日の日曜日の礼拝は、コロナ期間中以来、2年ぶりくらいになるでしょうか、牧師室からのZoomでの中継メッセージになってしまいました。実は、その前日の土曜日、13日に熱を出し、だるさと寒気があったので、用心しての決断でした。

その後、念の為、病院で診てもらった所、特に風邪とかインフルとかコロナとか・・・そういった事ではなく、諸事情重なったの疲れ（・・・詳細はお話しにくいのですが・・・）と体調の変化によるものだと分かり、これまた念の為の総合感冒薬と熱冷ましを頂く程度で済んで、ほっとしています。おかげさまで、1週間ほどたった今ではだいぶ良くなっていますが、それにしても、久しぶりに横になる数日間、教会の皆さんはじめ色々な方々のお世話になる経験をさせて頂きました。

病そのものは、やはり嫌なもの、避けたいものですし、多少なりともご迷惑をおかけした方々には申し訳ない思いも致しました。同時に、病む事を通して、自分もまた弱い存在である事、支えを必要とする者である事、支えられている恵みに与っているのだという事を、あらためて確認させて頂く事にもなりました。自分自身、弱さを知る者でなければ、本当の意味で、弱っている人の助けになる事は出来ない。弱っている人が、どう感じ、どう思い、何を願っているかを、自分自身の体験として持っていない限り、人は本当の意味で、弱き人の隣人になる事は出来ない。

一般的に、指導者には、有能さ、賢さ、統率力・・・など、「強さ」に分類される事柄が求められがちかも知れませんが、キリスト教会の牧師となるとちょっと性質が違って、むしろ、能力の足りなさ、愚かさ、罪深さ・・・といった、普通は「弱さ」に分類される事柄が求められる事があります。いや、むしろそちらの方が大事だったりします。

劣等感を抱いていたり、誤った選択を後悔していたり、犯してしまった罪に打ちひしがれたり。そういった方々へ救いを語ったイエス様を伝えるためには、牧師自身が、そういった方々の思いや感じ方、願いなどに寄り添う事が大事になって来ます。

『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。

わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです。

マタイの福音書9章13節、聖書 新改訳2017©2017 新日本聖書刊行会

久しぶりの病。あらためて、イエス様の愛の深さと真実を味わわせて頂く恵みに与りました。